

放送作家情報

2009/8/31

Vol. 23

発行／社団法人 日本放送作家協会

編集／広報委員会

〒 106-0032 東京都港区六本木 6-2-5 ハラビル

☎ 03-3401-5996 FAX 03-3408-7411 E-mail info@hosakkyo.jp

50周年特別号

是非ご参加ください！

創立50周年記念

「放送作家たちの50年」

日本放送作家協会は9月18日に創立50周年を迎えます。『ラジオ・テレビ作家の社会生活並びに職能、権益を擁護し、併せてその親睦をはかる』目的で、1959年（昭和34年）9月18日任意団体として創立され、1962年（昭和37年）4月に社団法人となりました。そこで日本放送作家協会では創立50周年にあたり、放送というメディアのおかれている現状をふまえ、放送番組の制作の基礎の基礎を担ってきた「放送作家」の先人たちの偉大な仕事を振り返る『脚本展』を実施します。さらに放送というメディアの現在の問題点と未来について率直に語り合う『シンポジウム』（バラエティ編、ドラマ編、報道ジャーナリズム編の3本立て）を同時開催いたします。その他、台本の朗読や講演等の企画も予定しています。入場無料ですが、事前に放作協事務局まで FAX（03-3408-7411）またはメール（info@hosakkyo.jp）にてお申し込みください。

■期間：2009年9月18日（金）より9月23日（水）

■場所：芸能花伝舎（東京都新宿区西新宿6-12-30 TEL:03-5909-3066）

■日本脚本アーカイブズ脚本展『脚本・台本の半世紀』

9月18～23日、11:00～19:00（最終日 15:00まで） 於：芸能花伝舎1階1号室と2号室

■オープニング・セレモニー 9月18日（金）13:00～14:00 於：芸能花伝舎1階4号室

ゲスト 秋房子（協会員 タレント萩本欽一氏の筆名）、司会 中江有里（協会員、女優）

■シンポジウム（敬称略、50音順）

・バラエティ部門『バラエティ番組は、誰に支えられてきたのか？』

9月18日（金）15:00～17:00 於：芸能花伝舎1階4号室

コーディネーター：水島久光（東海大学文学部教授）

パネリスト：秋元康（協会員）、稲増龍夫（法政大学社会学部教授）、高須光聖（協会員）、

横澤彪（元テレビ・プロデューサー）、

・ドラマ部門『テレビドラマにおける作家性の復権』

9月19日（土）13:00～15:00 於：芸能花伝舎1階4号室

コーディネーター：上滝徹也（日大芸術学部教授）

パネリスト：鈴木嘉一（読売新聞編集委員）、中園ミホ（協会員）、堀川とんこう（テレビ演出家）、山田太一（協会員）

・テレビジャーナリズム部門『表現の自由とメディアの倫理』（仮題）

9月19日（土）16:00～18:00 於：芸能花伝舎1階4号室

コーディネーター：丹羽美之（東京大学大学院情報学環准教授）

パネリスト：今野勉（テレビマンユニオン取締役副会長）、立花隆（評論家）、服部孝章（立教大学社会学部教授）、藤田真文（法政大学社会学部教授）、吉岡忍（ノンフィクション作家）

■関連イベント（敬称略）

◎講演 『ドキュ・バラ・ドラマの可能性について』早坂暁（協会員）

9月23日（水）13:00～15:00 於：芸能花伝舎1階4号室

◎向田邦子のラジオ台本朗読会&脚本講座（期間中、毎日開催の予定、時間未定）

◎朗読劇『女の一生』（出演：淡島千景ほか 協力：北村塾）&脚本家・森本薫についてのミニ講演会

9月22日（火）14:00～16:30 於：芸能花伝舎G棟1号室

※ 上記イベントの内容につきまして、若干の変更が生じる場合もありますのでご了承ください。

※ 未定事項など、詳細は、放作協HP及び広報ブログで随時、最新情報をご案内します。

※ 放作協事務局、及び、日本脚本アーカイブズ準備室（電話 03-3882-1071）でもご案内いたします。

※ 9月18日（金）午後6時より、会場近くで会費制の懇親会を予定しています。参加希望の方は、放作協事務局に電話（03-3401-5996）かメール（info@hosakkyo.jp）にてお申し込みください。

50周年記念出版！

協会員の皆様にはお一人一冊ずつ贈呈いたします！

「テレビ作家たちの50年」8月25日発売！

日本放送作家協会創立50周年を記念して、協会の編纂による『テレビ作家たちの50年』を、NHK出版の協力を得て、8月25日に上梓しました。原稿の多くは顔ぶれ多彩な協会員の寄稿によるものです。放送にアイデアと熱意を吹き込んできた脚本家、構成作家たちが、自身の手がけた番組を回顧する内容で、放送作家の業績と役割を記録したクロニクルとなっています。放作協50年の協会のあゆみは、ほぼ同時期に始まった日本のテレビ史と重なり、テレビを脚本という一番大切な土台作りで一から支えてきた放送作家の歴史そのものでもあります。アナログから地デジ切り替えを目前に控え、テレビが新しい時代を迎えようとしているこの時期に、本書を一人でも多くの方にお読みいただき、明日の放送文化を考えていただく布石となれば幸いです。



■『テレビ作家たちの50年』日本放送作家協会 編

■版元 NHK出版（日本放送出版協会）

■定価 2,100円（本体2,000円）

■発売年月日 2009年8月25日

■ISBN 978-4-14-081387-4

※放作協の会員の皆様には、書籍小包み（版元のNHK出版の封筒）にて、お一人に一冊ずつお届けいたします。50周年記念品として、お納めください。

※全国の書店からお取り寄せも可能です。お知り合いの放送関係者にもご一読をおすすめください。

協会員の皆様へ

広報委員会・企画事業委員会からのお知らせ

インターネット プロフィール登録サイトのご案内

インターネット上でHPやブログを作成し、作家としての活動履歴や今後の活動予定を発信していらっしゃる会員の皆様も多数いらっしゃいますが、御自身でHPやブログを作成しなくても、無料でプロフィールやプロモーション情報を発信できるインターネットツールがいくつか存在しています。そのひとつに今回ご案内する『タレントスケジュール』があります。“ぴあ”と関連するサイトでTVぴあや、チケットぴあ等で発信された情報と連動しています。俳優、歌手及び作家、脚本家、作詞家、評論家、演出家、映画監督等のカテゴリもあり、“ぴあ”から発信された作品名や作家名ですでに検索可能な場合もあります。会員の中からプロフィール情報を自身で登録したいという希望がいくつか寄せられましたので、今回『タレントスケジュール』サイトを運営する(株)ナノ・メディアの担当セクションで、放作協の会員に関しては希望者には会員自身から発信するプロフィール情報の登録を行えることになりました。登録は希望者のみ。登録情報内容も選択できます。ご検討の上、ご希望の方は下記の要領で登録をお申し込み下さい。

■登録方法

- ・郵送またはFAXで…裏面の登録フォーム用紙をお使い下さい。

郵送先 〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館8F 株式会社ナノ・メディア
タレントスケジュール 放送作家係宛

FAX番号 03-5775-6256 タレントスケジュール 放送作家係宛

- ・メールで…放作協の会員専用ページでExcel形式の登録フォームがダウンロードできます。

裏面の登録用紙に記入してスキャンしたファイルを添付されてもOKです。

support@talent-schedule.jp (件名に「放送作家登録」と書いて下さい)

- ・顔写真の掲載もできます。郵送は紙焼き、メールではJPGのファイルで添付して下さい。

※登録内容は必要な項目だけ記入してください。ただし筆名は必ずご記入ください。また「放送作家協会」

のキーワードで検索可能にするため、所属欄の「日本放送作家協会」文言も必須とさせていただきます。

※登録の費用は無料ですが、郵送、FAX、メール送信にかかる費用は各自のご負担になります。

■タレントスケジュールについて

URL <http://talent-schedule.jp/> (登録される前に必ずサイトをご覧下さい)

運営会社 (株)ナノ・メディア <http://www.nanomedia.jp>

問合せ先 (株)ナノ・メディア エンタテインメント第2事業部 エンタテインメント第1チーム

Tel: 03-5775-6255 担当 谷内、当真

※放送作家協会のHPの会員専用ページでも、ご案内しています。

※不明な点は、放送作家協会 広報または企画事業委員会までお問合せ下さい。

放送作家協会員用登録フォーム

■タレントスケジュール プロフィール登録データ■

補足:掲載を希望しない項目については、空欄で構いません。

タレント名(フリガナ)※必須項目 *氏名はスペースを開けずにつめてお書きください。		生年月日 (例. 19790528)		デビュー年	年
(フリガナ)		出身地		デビュー作品	
		血液型(A,B,O,AB)			
身長 *小数以下省略	体重 *小数以下省略	バスト *小数以下省略	ウエスト *小数以下省略	ヒップ *小数以下省略	足のサイズ *小数第1位まで
cm	kg	cm	cm	cm	cm
●最終学歴		●趣味・特技			
●受賞暦		●資格			
●家族タレント名※親族の方が芸能界に在籍している場合、フルネームをご記入ください。					
●グループ名 ※劇団などを主宰・所属している場合		●メンバー名 ※劇団などを主宰・所属している方はご記入ください			
●代表作品					
●告知情報					
●著作、CDなど					
●公式ブログタイトル			●公式ブログ URL		
●公式サイト タイトル (PC) (携帯)			●公式サイト URL (PC) (携帯)		
●登録ジャンルを以下の中からお選びください。(複数選択可)					
【登録ジャンル】※該当ジャンルについては□→■に変換してください <input type="checkbox"/> バラエティタレント <input type="checkbox"/> モデル <input type="checkbox"/> グラビア・レースクイーン <input type="checkbox"/> アイドル <input type="checkbox"/> 司会・MC <input type="checkbox"/> その他(タレント・モデル) <input type="checkbox"/> 俳優(男性) <input type="checkbox"/> 俳優(女性) <input type="checkbox"/> その他(俳優) <input type="checkbox"/> 歌手 <input type="checkbox"/> ミュージシャン <input type="checkbox"/> 作詞家・作曲家 <input type="checkbox"/> プロデューサー <input type="checkbox"/> ダンサー <input type="checkbox"/> その他(音楽) <input type="checkbox"/> お笑いタレント <input type="checkbox"/> 漫才師 <input type="checkbox"/> 落語家 <input type="checkbox"/> その他(お笑い) <input type="checkbox"/> 声優 <input type="checkbox"/> ナレーター <input type="checkbox"/> ディスクジョッキー <input type="checkbox"/> キャスター・アナウンサー <input type="checkbox"/> リポーター <input type="checkbox"/> その他(声優・アナウンサー) <input type="checkbox"/> 評論家・コメンテーター・ジャーナリズム					
●所属事務所 ※追加もOK 社団法人 日本放送作家協会			●事務所HP URL ※追加もOK http://www.hosakkyo.jp/		

追加事項→

放 作 協 活 動 報 告

放送作家協会の活動は、協会HPに随時掲載しています。ここではその一部をご紹介します。
より詳しい内容は、協会HP、及びHPからアクセスできる各ブログをご覧ください。
また会員専用ページにログインすると、毎月の理事会の報告など会員専用の情報も掲載しています。

創作ラジオドラマ大賞／創作テレビドラマ大賞

3月に第37回創作ラジオドラマ大賞の選考が終了。
現在第34回 創作テレビドラマ大賞の応募作品を審査中。
今秋には第38回創作ラジオドラマ大賞の募集が開始、それに伴う公開講座も開催の予定。
※協会員が審査、公開講座の講師、表彰式の進行を担当します。

脚本等の講座

放送作家協会の会員が講師として指導する講座です。後進を育て、放送文化の向上に寄与するとともに、放送作家のノウハウをもって広く社会に貢献する目的も伴っています。

- 諫早図書館シナリオ講座：市民講座 朗読劇もしくはラジオドラマの脚本指導と演出。
- テレビ朝日アスク「放送作家養成コース」：プロ養成のためのカリキュラム作成と指導。
- 東京フィルムセンターオブアート専門学校：プロ養成のためのカリキュラム作成と指導。
- 西東京市柳沢公民館「お笑い講座」：市民講座 漫才、コント台本指導。

※各支部でも養成講座が開催されています。

カフェ・ラ・テ (RFラジオ日本 JORF 1422Hz)

2007年秋にスタートしたラジオ番組です。日本放送作家協会の協会員が出演してラジオやテレビのとおきの面白話をくりひろげます。番組の中では、放作協の活動も告知し、放作協広報番組としても機能しています。放送した内容は、<http://jhosakkyo.exblog.jp/>でご案内しています。放作協HPの広報ラジオボタンからもアクセスできます。また月刊「ドラマ」誌(映人社)に『カフェ・ラ・テの庭で』として連載しています。ドラマ誌の方は、脚本公募コンテスト応募者が読者に多いことを鑑み、放送した内容でも特に脚本家志望者に役立つ情報を掲載しています。

(※現在は木曜深夜2時からの放送ですが、10月以降の放送時間については上記ブログにてご案内します)

アジア放送作家カンファレンス (※第3回までは「東アジア～」でしたが、第4回から「アジア～」になりました)
アジア各国・各地域の放送作家たちが一堂に会する第4回アジア放送作家カンファレンスが、2009年6月3日～5日まで韓国ソウル市で開かれました。今回は日本から約20名の放送作家が参加しました。第3回は2008年6月に日本放送作家協会が韓国と共催で福岡・長崎にて開催。日本の脚本家がオリジナル作品を書き、韓国の俳優・監督で製作する『テレンマ』プロジェクトも発表されました。このプロジェクトは2007年第2回上海会議に参加した放作協会員より発案され、日本放送作家協会協力のもとに進められ、今回ソウル会議の会場で『テレンマ』7作品のハイライトが上映されました。第1回の釜山会議より、各国ドラマに見る同質性と共同制作の可能性が議題に取り上げられてきましたが、実際に作品が生まれたことで脚本は国境を越えて同じ感動を共有することを実証したといえます。そしてアジア各国・各地の作家たちが同じテーブルで熱い議論を重ねたことで、作家性を重んじ、信頼と友情という絆が毎回強まっていくことに何よりカンファレンスの意義を感じます。

国民文化祭イベント

各県で毎年開催されている国民文化祭の広報活動のお手伝いの一環として、開催県と共催（後援は文化庁）でイベントの企画、実施を行ってきました。2005年福井県・ふくい2005直前シンポジウム「スローライフのすすめ」、2007年徳島県・おどる国文祭50日前イベント『遊山箱〜こころ伝える玉手箱〜』、2008年茨城県・いばらき2008開幕直前イベント『いばらきの人 Who Do Ki〜未来への新しい「風土記」を求めて！〜』。

支部の活動

北海道支部「北のシナリオ大賞」／中部支部「中部テレビ大賞」／関西支部「心齋橋大学」、「関西ディレクター大賞」、「ぶっちゃけトーク」／中国支部「中国支部ゴジラ講座」／九州支部「南のシナリオ大賞」「一支国弥生まつり」など。

サイトのご案内 関西支部心齋橋大学 <http://www.shinsaibashi-daigaku.jp/>
九州支部 <http://writers9sib.org/>

脚本アーカイブズ（※設立に向けて準備室を開設し活動しています）

専用サイトがオープンしました。<http://www.nk-archives.com/> さらにメルマガも配信されています。希望者にはメールアドレスを登録しますと自動的に配信されますので、各自お申し込みください。登録はこちらからどうぞ。http://www.melma.com/backnumber_179041/

活動内容は、台本収集・保存、デジタルアーカイブ構築にむけての調査研究、海外視察（アメリカ、フランス、イギリス、韓国）など。また、脚本展開催や、放送映画文化講座『てら』の脚本講座に協力することなどを通して、準備室開設中に蓄積した文化財産を、社会に還元しています。

準備室所在地 〒120-0034 東京都足立区千住5-13-5 学びピア21 5階

TEL：03-3882-1071 FAX：03-3882-1073 メール postmaster@nk-archives.com

ラジオの会

放作協が後援している「ラジオの会」の活動は、2006年6月に運営委員を一新してから、年2回を目標に「制作者セミナー」を開催しています。2009年は2月にVol.6「不易流行オーディオドラマ」、8月にVol.7「アニラジってなに?!」を開催。ラジオの会は放送作家、制作スタッフ、OB、将来ラジオで仕事をしたいと考えている学生など、音声メディア番組の質の向上を目指す志のある方々が会員になっています。セミナーの告知は、放作協広報ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/japanhosakkyo>にてご案内しています。放作協HPの広報ブログボタンからもアクセスできます。入会などお問い合わせは radio.no-kai@softbank.ne.jp まで。

地球上どこにいてもネットでつながる放作協のホームページ <http://www.hosakkyo.jp> は定期的に更新しています。また、広報ブログ、<http://blogs.yahoo.co.jp/japanhosakkyo/> では、放作協の活動について、随時お知らせをしています。併せてご覧ください。

日本放送作家協会には、放送された著作物が2本以上ある放送作家、放送文化向上に関わる著作物を2作品以上有する文筆業の方に入会資格があります。なお入会には協会員2名の推薦が必要です。新規会員をご紹介いただける場合は、放作協事務局までお問い合わせください。

社団法人 日本放送作家協会 創立50周年記念

放送作家たちの50年

50 YEARS of TELEVISION & RADIO WRITERS

期間：2009年9月18日(金)～23日(水・祝)

会場：芸能花伝舎(入場無料)

日本脚本アーカイブズ脚本展

『脚本・台本の半世紀』

テレビ・シンポジウム(五十音順・敬称略)

バラエティ部門

『バラエティ番組は、誰に支えられてきたのか?』

水島久光／秋元康／稲増龍夫／高須光聖／横澤彪

ドラマ部門

『テレビドラマにおける作家性の復権』

上滝徹也／鈴木嘉一／中國ミホ／堀川とんこう／山田太一

報道ジャーナリズム部門

『表現の自由とメディアの倫理』(仮題)

丹羽美之／今野勉／立花隆／服部孝章／藤田真文／吉岡忍

放送作家たちの50年

期間：2009年9月18日(金)～23日(水・祝) 会場：芸能花伝舎(入場無料)

日本放送作家協会は1959年9月18日、

「ラジオ・テレビ作家の社会生活並びに職能、権益を擁護し、併せてその親睦をはかる」目的で創立されました。

50周年を迎えるこの9月、『テレビ作家たちの50年』(NHK出版)を出版すると共に、

放送番組の「基礎の基礎」を担ってきた「放送作家」の先人たちの偉大な仕事を振り返る『脚本展』、

そしてテレビ・ラジオメディアの現在の問題点と未来について率直に語り合う『シンポジウム』

(バラエティ編、ドラマ編、報道ジャーナリズム編の3本立て)を開催することになりました。

ぜひとも足を運んでいただきますようお願いいたします。

日本脚本アーカイブズ脚本展

『脚本・台本の半世紀』

開場時間：午前11時～午後7時(最終日は午後3時まで)

戦前のラジオ台本をはじめ、脚本アーカイブズ特別委員会で収集した3万冊強の中から貴重な脚本・台本を展示。「私は貝になりたい」の初放送の時の脚本をはじめ、今では脚本でしか内容を知ることのできないテレビ創成期のドラマ脚本、構成台本など。

テレビ・シンポジウム(五十音順)

バラエティ部門

『バラエティ番組は、誰に支えられてきたのか?』

日時：9月18日(金)午後3時～5時

コーディネーター：水島久光氏(東海大学文学部教授)

パネリスト：秋元康氏(作詩家、協会員)

稲増龍夫氏(法政大学社会学部教授)

高須光聖氏(放送作家、協会員)

横澤彪氏(元テレビ・プロデューサー)

ドラマ部門

『テレビドラマにおける作家性の復権』

日時：9月19日(土)午後1時～3時30分

コーディネーター：上滝徹也氏(日大芸術学部教授)

パネリスト：鈴木嘉一氏(読売新聞編集委員)

中園ミホ氏(脚本家)

堀川とんこう氏(テレビ演出家)

山田太一氏(脚本家)

報道ジャーナリズム部門

『表現の自由とメディアの倫理』(仮題)

日時：9月19日(土)午後4時～6時

コーディネーター：丹羽美之氏(東京大学大学院情報学環准教授)

パネリスト：今野勉氏(テレビマンユニオン取締役副会長)

立花隆氏(評論家)

服部孝章氏(立教大学社会学部教授)

藤田真文氏(法政大学社会学部教授)

吉岡忍氏(ノンフィクション作家)

※満員の際はお立ち見となります。事前にお問い合わせ下さい。

関連イベント

早坂暁氏講演会

『ドキュ・バラ・ドラマの可能性について』

日時：9月23日(水)午後1時～3時

向田邦子ラジオ脚本リーディング&脚本講座

日時：9月20日(日)～22日(火) 時間はお問い合わせ下さい。

朗読劇『女の一生』(主演:淡島千景、協力:北村塾)

&脚本家・森本薫についてのミニ講演会

日時：9月22日(火)午後2時～4時30分

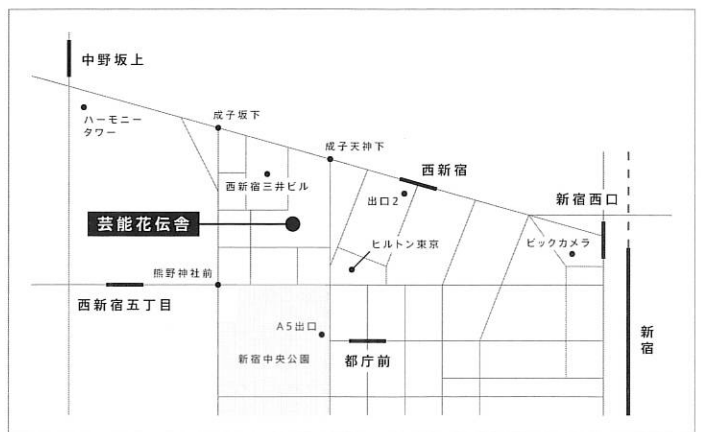
※内容・日時は出演者の都合で変更する場合があります。事前にお問い合わせ下さい。

50周年記念出版

『テレビ作家たちの50年』

(日本放送作家協会編・NHK出版 定価2,000円<税別>8月25日発売)

アクセス



芸能花伝舎(〒160-8374 新宿区西新宿6-12-30)

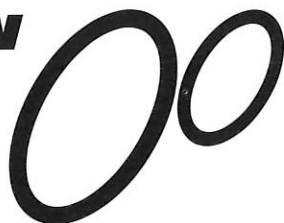
・東京メトロ丸ノ内線「西新宿」出口2より徒歩約6分

・都営大江戸線「都庁前」A5出口より徒歩約7分

・都営大江戸線「中野板上」「西新宿五丁目」より徒歩約10分

・「新宿」西口より徒歩約15分

KEIRIN



連絡・問合せ：社団法人 日本放送作家協会

電話 03-3401-5996 ファックス 03-3408-7411 Eメール info@hosakkyo.jp

主催：社団法人 日本放送作家協会 / 協賛：社団法人 日本芸能実演家団体協議会 /

協力：協同組合 日本俳優連合、社団法人 日本映画俳優協会、日本映画テレビ照明協会 /

後援：社団法人 日本民間放送連盟

この事業は、競輪の補助金を受けて実施します。http://ringring-keirin.jp